



自らまなび 心豊かに
たくましく生きる
江北の子を育てます

江北小だより

～幸せいっぱい 학교をめざして～ 校長だより第6号
令和2年7月21日(火) 江北小学校校長 篠原 一彦

1学期のまとめの時期になりました

1学期は新型コロナウイルス対策や大雨の影響で14日間休校しましたが、いよいよあと10日となりました。

とにかくこれまでの学校生活とは大きく異なった1学期でした。1日のほとんどの時間マスクをする、友達との席を離す、歌ったり楽器を演奏したりしない、プールの授業がない、給食は前を向いて食べる、昼休みの時間が半分になる…など、子ども達も大変だったと思います。

それでもやっぱり子ども達はたくましいです。がまんや努力を強いられる生活の中でも、勉強・運動に頑張り、友達との楽しい遊びを見つけ、笑顔で過ごす子ども達の姿が数多く見られました。

この後31日(金)まで1学期を延長します。暑さと体力を考慮し、朝からエアコンを入れ、午前中4時間授業の後に給食を食べて午後1時半頃下校します。家では体力の回復を図るとともに、午後の自由な時間がいつもよりはありますので、少しでも夏休み気分も味わえるといいですね。

とても嬉しい手紙をいただきました

先週、地域の方から「江北小の子どもさんからとても親切にしてもらい助かりましたので感謝の気持ちを伝えさせてください。」とお手紙をいただきました。

それは町内に住む若いお母さんからのお手紙でした。ある日の夕方、そのお母さんが二人の小さなお子さんを連れて帰っていると二人ともぐずりだし、やむなく一人をベビーカーに乗せ、もう一人をおんぶされたそうです。しかし片手でベビーカーを押し、もう片方の手で背中におんぶした子を支えて歩くのは大変だったそうです。

そこへ通りがかった高学年の男の子がお母さんの様子を見て、「大変ですね。手伝いますよ!」と言ってくれたそうです。一度は遠慮して断ったのですが、その男の子はしばらくしてまた戻ってきて「やっぱり手伝います!」と言って、家の近くまでベビーカーを押ししてくれたそうです。

「声をかける勇気とやさしさにとっても感動し、嬉しかったです。」と言葉が添えられていました。

後にこの男の子は5年生とわかりました。男の子はもとより、江北小の児童全員のことを誉めていただいた気がしてとても嬉しい出来事でした。



貴重なご意見、有難うございました

6月～7月にすべての保護者の皆様をお願いをした「いじめ・体罰等のアンケート」にご協力いただき心より感謝申し上げます。

いじめアンケートにつきましては「いじめを受けている」「いじめを受けたことがある」と回答された保護者様および児童からの情報に基づいて、「先生あのね週間」を設定し、担任が児童から個別に話しを聞く機会を設けました。どんないじめを受けたかを聞き取り、その後、関係した児童の指導と学級・学年全体に指導を行っております。合わせて全職員で情報を共有し、これまで以上にアンテナを高く張り、予防と発見に努めてまいります。

また「いじめはどの学級でも起こりうる」「いじめは教師や大人の目の届かないところで起こる」ということを教職員が自覚して、日頃から子ども達とのつながりを強くし、どんなことでも相談できる関係の構築に励んでまいります。保護者の皆様におかれましても気になることがございましたら担任・学校までご連絡ください。

「体罰等に関するアンケート」でも貴重なご意見や情報をいただきました。ご提出いただいた中に、「子どもが体罰を受けた」という回答はありませんでしたが、「行き過ぎた指導ではないかと思う」という回答も数件いただきました。真摯に受け止め、当該の教職員はもとより全職員に対して体罰を絶対に行わないこと、怒りの感情に任せた強い指導を行わないこと、「怒る」のではなく「叱る」ことを意識すること、等について指導を行いました。

学校ではお寄せいただいたご意見や情報を真摯に受け止め、反省し、改善を図っていくことで子ども達が安心して楽しく過ごせる学級・学校づくり、保護者の皆様が安心して子どもさんを預けられる学校づくりに努めてまいりますので今後も何卒よろしくお願い申し上げます。また最後になりましたがアンケートでは教職員や学校に対する激励や応援の声も多々いただきました。厚く御礼申し上げます。



ご存じですか？「オンラインゲーム」

最近の子ども達との会話や担任の先生からの情報でわかったことですが、子ども達の間で「オンラインゲーム」がかなり流行しているようです。

保護者の皆様は、お子さんがどんなゲームを、どのように、どのくらいの時間行っているか、ご存じでしょうか。

「子どもとゲーム」については、これまでも何十年にも渡って「やりすぎに注意」とか「“依存症”や“ゲーム脳”になるのでは」と心配の声が多く聞かれてきました。家庭訪問や学級懇談で話題になったこともあります。ゲーム機やゲームソフトの貸し借り、子ども同士でのゲーム代のやり取りが問題になったこともありました。

学校においては、ゲームをしすぎることの弊害やそれに起因する「怖さ」はこれまでも（現在も）指導しているところですが、家庭に帰った子ども達にはなかなかその指導が届かないのが実状です。そこで「ノーテレビ・ノーゲームデー」を設けてご家庭にも協力をお願いしているところですが、このような取組が始まったのも子ども達（さらには大人も！）がゲームにはまっている（依存している）という要因があります。

そして今、小学校でもオンラインゲームに関わるトラブルや問題事案の報告が上がっています。

- 一つ目は「言葉遣いが荒くなる」ことや「殺人的・攻撃的なゲームにより人間関係の悪化につながる」という問題です。ゲーム内での出来事を実生活でも引きずって、友達と仲が悪くなったり気まずくなったりした例があります。
- 二つ目は「朝から体調が優れない」「授業中に寝る」「宿題の未提出」などの学校生活への影響です。子ども達の中には「今日、〇時からしようね」と約束して帰る子もいるようです。
- 三つ目はオンラインで知らない人とつながることの危険性です。ゲームで知り合った相手に実名や住所等の個人情報を教えてしまい、トラブルや犯罪に巻き込まれる怖さもあります。ゲームの相手は小学生とは限らないのです…
- 四つ目は「課金」に伴うトラブルです。ゲーム代に数万円も請求された事例も出ています。

これらはいずれもゲームの影響といえます。子ども達が登校後「体調が悪い」と言えば学校も対応しますが、ゲームによる寝不足、朝ご飯を食べていない、ゲームの影響で宿題をしていない、ゲームで友達とトラブルがあったなどの理由を聞くと学校としての対応に限界を感じます。

子ども達の中には「お父さんも一緒にする。」

「課金はお母さんに言ってからする。」と教えてくれた子もいます。保護者様がきちんとゲームの内容や時間、課金をコントロールして家族で楽しい時間を過ごしていらっしゃる家庭もあり、一概にオンラインゲームが悪いとは言えません。しかしゲームの影響が子ども達に出ていることは事実です。ゲーム機やスマホは、子ども達に与えた後が重要です。「楽しく便利に使う権利を得る。」と同時に「危険やリスクを負う。」ということも覚悟しなくてはなりません。大きなトラブルが起こったり事件や犯罪に巻き込まれたりしては取り返しがつかないからです。まずはお子さんがどんなゲームを、どのように、どれくらいの時間しているかを把握し、適切に対処することが重要です。

子ども達を心身ともに健やかに育てることが大人の務めです。学校と家庭の役割を今一度確認し一緒に考え、実行していきましょう

お手伝い有難うございます！

～江北っ子応援隊ボランティア～

先週から6年生が家庭科で「ナップザック」を作っています。出来上がったなら長崎での修学旅行で使う予定で、子ども達も意欲的に作成しています。

その作成にあたり、「江北っ子応援団」の皆様ボランティア・ティーチャーとしてミシン実習のお手伝いに来ていただいています。

子ども達は型どり、しつけ縫いの後、応援団の皆さんの手ほどきを受けながらしっかりとミシンがけを行っていました。今後、6年1～3組の実習のいずれにも入っていただきます。本当に有難いことです。



学校運営協議会が開催されました

江北小と江北中学校は「地域とともにある学校づくり」を目的として町教委より「コミュニティ・スクール」に指定されています。7月17日(金)、今年度第1回目の学校運営協議会が開催され、①地域や町の一員としての自覚を高め、地域や町の行事に参加する子どもを増やす、②江北っ子応援団等の活動を通して、地域で地域の子どもの育てる意識を高める、の2点が今年の目標に決まりました。今後も「学校の教育活動の充実と、地域の活性化を図るコミュニティ・スクールの活動」が実践されていくことになっています。先述の「江北っ子応援団」の募集も行われる予定ですのでぜひご協力ください。